退職から１年

昨年３月 31 日に定年退職して、早いもので１年になる。あの日も大学キャンパスの桜は満開であった。写真はいつも眺めていた研究室ベランダから撮ったものだ。美しい桜もなんだか寂しげであった。

あれから 1 年を振り返ると、悲しいこと、辛いことも多かった。同僚だった石川さんの死は、なんといっても悲しい出来事だった。石川さんが退職の日に送ってくれたメールを思い出す。わが家族のことでも辛い日が多かった。退職を機会に転居するはずだったが、家族の「事情」で先に延ばした。名古屋での仕事などを断ってきたので、「空白」ができたようだが、これもしかたがない。

退職後しばらくは家で仕事などをしたが、どうも落ち着かない。35 年にわたり大学の研究室で仕事をしてきたので、なかなかペースがつかめなかった。近所の千種図書館に行き、すこしでも歩くようにしたが、どうもすっきりしない。そこで、名大図書館を利用させてもらうことにした。本山から歩くのにちょうどよい距離であり、なによりも快適な「スペース」を確保できるからだ。朝から毎日のように通っている。「居場所」を確保できて、ほっとしたものだ。

その成果が『災後の新聞』の出版である。退職前から出版を考えていたが、ずるずると時が経ってしまった。名大図書館で集中して作業をして、7 月半ばには刊行できた。原稿の編集・校正などを繰り返したことが忘れられない。出版を急いだが、残念ながら石川さんには読んでもらえなかった。出版後も、『ジャーナリスト』に隔月で寄稿し、記念すべき『東海ジャーナリスト』100 号に原稿を寄せることができた。

この１年間、原稿を書くだけでなく、じつに多くの本を読んできた。若い頃に戻ったようであった。まずは家の読まずに書架に並べてある本から手にとった。戦後史に関わる本から集中して読み、安倍首相が標的とする「戦後レジーム」から、高度成長時代へと読み進んだ。「積んどく」本を読めば読むほど、恥ずかしながら「勉強不足」を痛感している。なるべくノートを取るようにしてきたので、この１年の「読書遍歴」を振り返ることができる。

さて、これから退職 2 年目をどう過ごしていくか。まだはっきりしないことも多いが、もうすこし先のことを見据えて生活し、まとまった「仕事」もしていきたい。

（2015 年 3 月 31 日）